

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：33504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K02056

研究課題名(和文) 身寄りがなく意思決定が困難な人の医療の決定プロセスの研究

研究課題名(英文) Decision-making process of medical care for people who have no relatives and have difficulty in decision-making

研究代表者

山崎 さやか (Yamazaki, Sayaka)

健康科学大学・看護学部・助教

研究者番号：60784585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：身寄りがなく意思決定が困難な人の医療の決定プロセスについて国内外の先行研究をレビューした。身寄りがなく意思決定が困難な人の医療には、治療の遅延、患者の意思を反映できない等の課題があった。全国の病院を対象としたアンケート及びインタビュー調査データの分析を実施した。身寄りがない患者の課題としては、医療の決定が高い割合を占めていた。また、医療の決定プロセスとしては、医療チームでの決定が高い割合を占めていた。この分析に基づき「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」の作成に協力をした。事例集については研修会やセミナーを通して周知に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今まで明らかになっていなかった日本の病院における身寄りがない患者の実態や課題を明らかにした。「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」は、身寄りがない人の医療の決定についての標準的な考え方を提示した。今後、単身世帯の増加、認知症高齢者の増加が予測されるが、標準的な医療の決定プロセスを定めることで、対応の質の向上につながる。また、患者とその家族が安心して医療・ケアチームに医療の決定を委ねることが可能になると考える。

研究成果の概要(英文)：We reviewed previous domestic and foreign studies on the decision-making process of medical care for people without family and have difficulty making decisions. Medical care for people without family and have difficulty in making decisions involved issues such as delays in treatment and inability to reflect the patient's wishes. Questionnaire and interview survey data from hospitals nationwide were analyzed. When people without family are hospitalized, medical decision-making becomes difficult. In addition, a high percentage of the medical decisions were made by the medical team as the medical decision-making process. Based on this analysis, we cooperated in the development of collection of examples on supported decision-making for people without family and for people who have difficulty making decisions regarding medical care. The collection of examples was disseminated through workshops and seminars.

研究分野：老年看護学

キーワード：身寄りがない人 意思決定が困難な人 認知症 意思決定支援 権利擁護 医療の決定プロセス

1. 研究開始当初の背景

近年、医療や救急等の現場において、身寄りのない高齢者等、本人に代わって判断をする親族がいない場合に、必要な対応がなされないケースが生じているとの指摘がある。このような背景を基に、平成30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業：研究代表者 山縣 然太郎)「医療現場における成年後見制度への理解及び病院が身元保証人に求める役割等の実態把握に関する研究」において、「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」(以下「ガイドライン」という。)を策定し、令和元年6月に発出された。

当該ガイドラインは、身寄りがなく、医療に係る意思決定が困難な人への対応方法、判断能力の程度や家族関係にかかわらず本人の意思・意向を確認し尊重する原則を方向性を示した。当該「ガイドライン」では、医療行為の同意については、本人の一身専属性がきわめて強いものであり、第三者に同意の権限はないという考えを示している。

本人の判断能力が不十分な場合は「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」(平成30年3月改訂 厚生労働省)(以下「プロセスガイドライン」という。)の考え方も踏まえ、医療・ケアチームや臨床倫理委員会等を活用して決定することが推奨されている。このような医療・ケアチームによる医療の決定を推奨をする前提として、医療・ケアチームが、意思決定が困難な人の医療について、倫理的に妥当な判断をしている必要がある。しかし、医療・ケアチームのその決定をだれが、いつ、どのような手続きで行うのかは、医療機関によって異なり、必ずしもコンセンサスを得た妥当な方法があるわけではない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、身寄りがなく意思決定が困難な人の医療についての、医療・ケアチームの決定プロセスの現状を明らかにすると共にその妥当性を検証して、医療機関の多様性に対応した標準的な方法を提言することである。今後、少子高齢化が進展し、単身の高齢者が増加すること、また、核家族化が進み、家族や親類がいても連絡が取れなかったり、支援を得られないケースも増えている。このような背景を踏まえると、今後、身寄りがなく、意思決定が困難な人の医療の決定を、医療・ケアチームで決定するケースがますます増加すると考えられる。

身寄りがなく、意思決定が困難な人の意思を尊重した医療を提供するためには、医療・ケアチームによる医療の決定が倫理的に妥当であることが担保される必要がある。そこで本研究は、医療・ケアチームがどのように患者の意思を認識し、どのように患者の意思を尊重した医療を決定していくのか、その決定プロセスの現状を検証し、臨床実践への示唆を得ることを目指す。

医療・ケアチームが自らの医療機関における標準的な決定プロセスを定めることで、困難事例に対して課題も明らかになり、対応の質の向上につながる。また、患者とその家族が安心して医療・ケアチームに医療の決定を委ねることが可能になると考える。

3. 研究の方法

第一段階：国内外の関連文献の調査をし、現状の課題を把握する。

第二段階：全国の病院を対象としたアンケート調査およびインタビュー調査のデータの分析を実施した。この分析に基づき、「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」の作成に協力した。

第三段階：研究成果を論文にまとめ、投稿・掲載をした。研修会およびセミナーを実施して周知に努めた。

実施時期	実施内容
令和3年5月 ～令和4年3月	・国内外の研究文献調査、アンケート調査およびインタビュー調査結果の分析
令和4年4月 ～令和5年3月	・「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」の作成、学会発表
令和5年4月 ～令和5年6月	・論文執筆、論文投稿
令和5年7月 ～令和6年3月	・研修会やセミナーの実施

4. 研究成果

1) 身寄りがない人の医療の決定プロセスについての先行研究

身寄りがなく意思決定が困難な人の医療の決定プロセスについて国内外の先行研究のレビューを実施した。身寄りがなく医療に係る意思決定が困難な人の先行研究は主に米国で蓄積があった。先行研究によると、身寄りがなく意思決定が困難な人の医療には、過剰医療、過小医療、治療の遅延、患者の意思を反映できない等の課題が山積していた。米国では、身寄りがなく医療の決定が困難な患者の増加が懸念される一方で、身寄りがない患者に対して、誰が治療方針を決定すべきか、あるいはどのような基準で治療方針を決定すべきかについて言及している法律や専門機関の方針声明はほとんどない現状である。

身寄りがなく意思決定が困難な人の医療的課題に対する州法やアプローチは多様であった。米国における代表的な医療の決定プロセスとしては、医療チームによる決定、倫理委員会による決定、主治医による決定、PPP: Patient preference predictor のようなコンピューターによる決定等が挙げられるが、それぞれのプロセスにメリットとデメリットがありコンセンサスを得ている方法は無かった。

国内においては身寄りがない患者の医療の決定についての実践報告が少数あったが、医療の決定プロセスや課題を、量的または質的に分析した研究は見当たらなかった。

2) 日本の病院における身寄りがない人の実態と入院時の困難

全国から無作為に抽出した4,000の病院を対象に自記式質問票を郵送し、国が推奨する「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」の活用状況や問題点、身寄りがない人の意思決定プロセス等を調査した。各地域の特徴や病院の役割を明らかにするため、カイ二乗検定を用いて病院の所在地や種類別に群間比較を行った。1,271病院から回答を得た(回収率31.2%)、そのうち952病院から身寄りがない患者の入院数に関する情報を得た。身寄りがない患者の入院数(年間概数)の平均値(SD)は16(79)、中央値は5で

あった。対象病院の約7割が身寄りがない患者の入院を経験しており、約3割の病院が経験していなかった。入院中に遭遇した困難は、緊急連絡先の収集、医療に関する意思決定、退院支援などが多かった。身寄りがなく意思決定が困難な患者の医療の決定は、医療チームが決定する、マニュアルやガイドラインに従い、倫理委員会に相談しながら行うのが一般的であった。国が推奨するガイドラインの活用については、ガイドラインを認知している病院の約7割が「ガイドラインに基づいた対応をしたことはない」と回答しており、地域や病院の種類によって大きな差があった。身寄りがない人の入院に関する問題を解決するためには、本ガイドラインの周知徹底を図るとともに、臨床倫理コンサルテーションを病院内で持続可能な活動とするための取り組みが必要である。

3) 「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」の作成

データ分析に基づき、「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドラインに基づく事例集」の作成に協力した。事例集は、身寄りがない人の入院に関する法的懸念事項、倫理的懸念事項を整理し、対応案を示したものである。本研究目的である医療・ケアチームによる医療の決定プロセスの標準的な方法を提示することができた。事例集については研修会やセミナーを通して周知に努めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山崎 さやか	4. 巻 16(4)
2. 論文標題 身寄りのない認知症の方の退院支援	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki Sayaka, Tamiya Nanako, Muto Kaori, Hashimoto Yuki, Yamagata Zentaro	4. 巻 18
2. 論文標題 Current situation of the hospitalization of persons without family in Japan and related medical challenges	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0276090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山崎 さやか, 山縣 然太郎	4. 巻 103
2. 論文標題 『『身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン』に基づく事例集』の概要	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 実践 成年後見	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 山崎さやか, 山縣 然太郎
2. 発表標題 身寄りがない高齢者の実態と関連要因
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sayaka Yamazaki
2. 発表標題 Situation of Older Adults in Japan and Guidelines for Decision-Making Support
3. 学会等名 Notokusumo Health Science Institue webiner (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山崎さやか
2. 発表標題 身寄りがない高齢者の医療の決定プロセスに関する文献レビュー
3. 学会等名 日本老年社会科学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sayaka Yamazaki, Nanako Tamiya, Kaori Muto, Yuki Hashimoto, Zentaro Yamagata
2. 発表標題 Current situation of the hospitalization of persons without family in Japan
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山縣 然太郎 (Yamagata Zentaro) (10210337)	山梨大学・大学院総合研究部・教授 (13501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------